

# 山形市総合交通戦略 概要版

## 1. 総合交通戦略策定の背景・目的

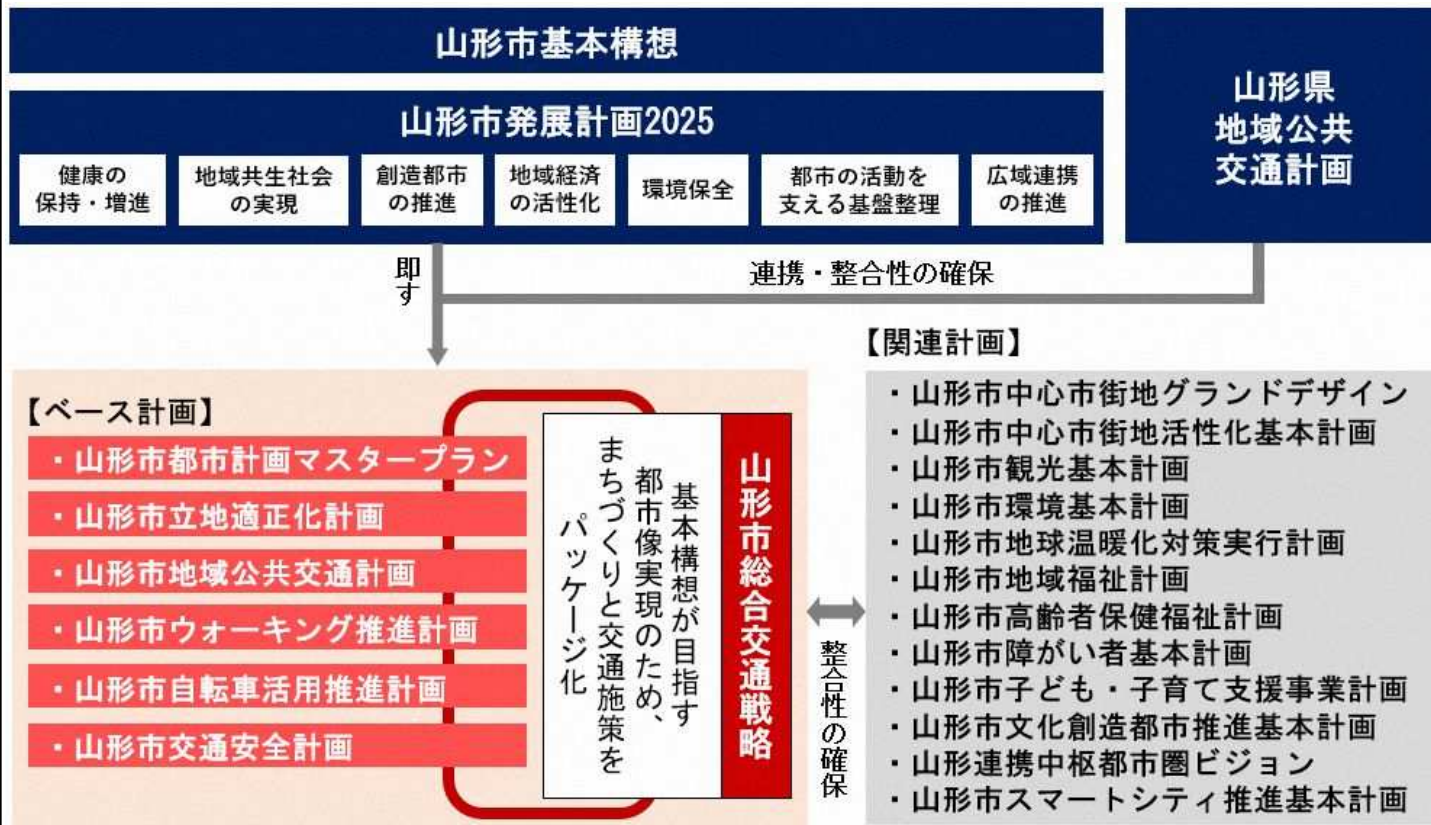
本市では、平成17年の国勢調査をピークに人口は減少傾向にあり、また、平成29年に実施した山形広域都市圏パーソントリップ調査の結果において、市民の過度な自家用車による移動の実態が浮き彫りとなっている。今後も人口減少、少子高齢化が進んでいく中で、自家用車を利用しない、利用したくても利用できない高齢者等がますます増加することが見込まれることから、公共交通の利便性向上により、自家用車に頼らずとも日常生活を送ることができるまちづくりが求められている。

こうした中で、道路インフラの在り方など将来のまちづくりも見据えながら、「山形市都市計画マスタープラン」など土地利用施策や市街地整備等と、「山形市地域公共交通計画」ほか重要な交通拠点となる交通結節点整備などの都市交通施策を一体的・戦略的に進めていく必要がある。

このため、そうした取組を施策パッケージとしてまとめ、「自家用車に頼らなくても誰もが快適に移動できる環境」をニーズに応じながら構築していくため、『山形市総合交通戦略』を策定する。

## 2. 戦略の位置づけ

本戦略は、「山形市基本構想」が目指す都市像の実現に向けて、「山形市発展計画2025」に即し、「山形市都市計画マスタープラン」や「山形市立地適正化計画」、「山形市地域公共交通計画」などの既存計画の取組を施策パッケージとしてまとめ、国など関係機関の支援を得ながら強力に推進する。



## 3. 戦略の対象区域・計画期間

本戦略の対象区域は、山形市全域とする。ただし、広域的な施策については、近隣市町との連携を図りながら実施していく。

計画期間は、令和6年度から10年間とする。なお、ベース計画の変更に応じて適宜内容の見直しを行う。

計画名	計画年次	計画期間									
		R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	...	R15 2033	R16 2034	R17 2035		
山形市都市計画マスタープラン	H29.3	~R17									
山形市立地適正化計画	R3.3	~R17									
山形市地域公共交通計画	R3.3	~R7	~R17まで山形市広域圏ネットワークビジョンの実現								
山形市総合交通戦略	R6.3	~R15									

## 4. 目指す将来像・現状及び課題

**目指す将来像** = **山形市基本構想の目指す将来都市像**

基本構想が目指す「誰もが健康で安心して暮らすことができる地域社会を広く創るため、産業・経済を発展させながら、豊かな自然や歴史・文化といった環境を守り育て、6つの視点から取り組む持続的発展が可能なまちづくり」の実現に向けて、その視点ごとに戦略目標を設定した交通戦略からアプローチし、その実現を図っていく。

健康・医療	「健康」と「医療」を核とするまちづくり
産業・経済	産業・経済の活力を生み出していくまちづくり
環境	豊かな環境を守り育てるまちづくり
地域社会	安心して暮らせる地域社会を共に創るまちづくり
文化	山形で育まれた文化を活かすまちづくり
広域連携	広域連携による圏域全体の持続的な発展を目指すまちづくり

### 実現に向けての現状及び課題

視点	現状	課題
健康・医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康寿命延伸のために提唱しているSUKSK生活において運動を推奨しているほか、健康の保持・増進のためのスポーツ活動に対するニーズが高まっている。</li> <li>「年齢を重ねても健康で、いきいきと暮らすことができ、いざというときには質の高い医療・介護が受けられるまち」を目指し、取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆全国と比べ自家用車への依存度が高い中で、徒歩移動や自転車利用を促すとともに、ウォーキングやサイクリングといった運動を、安全で快適かつ気軽にできる環境整備が求められる。</li> <li>◆自家用車に頼らなくても、快適に効率よく安心して通院できる、きめ細やかな公共交通網の充実が求められる。</li> </ul>
産業・経済	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域経済を活性化するため、都市機能が集積し経済のけん引役である中心市街地において、「歩くほど幸せになるまち」の実現に向けた様々な分野での魅力向上に取り組んでいる。</li> <li>持続的発展を図るため、若者定着や女性活躍に向けて取り組んでいる。</li> <li>産業振興と魅力ある雇用創出のため、山形北インター産業団地の開発を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆中心市街地をはじめとする山形市全体の機能性向上のため、生活者目線だけでなく、観光、ビジネス環境などを含め、市内全域で安全・スムーズに移動できるよう、公共交通の利便性向上が求められる。</li> </ul>
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>樹氷をはじめとする山形市の恵み豊かな自然の保全に取り組んでいる。</li> <li>2050年ゼロカーボンシティを目指し、脱炭素社会の形成に向けた環境負荷の少ないライフスタイルへの転換に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「コンパクト・プラス・ネットワーク」による、便利で暮らしやすく、地球環境にもやさしい徒歩や自転車、公共交通を利用して日常生活を送ることができる、環境負荷の少ないまちづくりが求められる。</li> </ul>
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域共生社会」の実現に向けて、高齢者が住み慣れた地域で、いつまでも健やかに生きがいを持って暮らすことができ、障がい者が地域の中でいきいきと生活し、積極的に社会参加できるよう取り組んでいる。</li> <li>地域や企業など、社会全体で子どもの成長を支え、子育てをしやすい環境整備が行われるよう取り組むなど、様々な立場にある市民が暮らしやすいまちづくりを進めている。</li> <li>安全・安心なまちづくりに向けて、防災・減災等の対策を推進し、災害に強いまちづくりに取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆日常生活に必要な買物・通院などがしやすいよう、高齢者・障がい者といった利用者それぞれのニーズに応じた多様な交通手段の提供とその広報周知のほか、移動に係るバリアフリー化が求められている。</li> <li>◆子どもや幼い子連れの方など、誰もが安全で気軽に移動でき、安全・安心に暮らすことのできる環境づくりが求められる。</li> </ul>
文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>文化創造都市の推進に向けて、文化財の保存と活用を図るとともに、山形市が育んできた多彩な文化資産などを、多くの人との連携により磨き上げ、新たな価値を創造する取組を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆文化に接する機会を創出するため、気軽に現地に出かけて、直接文化に触れ、それを知り、学ぶことができるよう、劇場や文化活動の拠点となる施設等までの公共交通のアクセス性向上が求められる。</li> </ul>
広域連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子高齢化の進展や行政ニーズが多様化、複雑化する中、地域の持続的発展を可能とし、魅力ある地域づくりを推進するため、近隣市町と連携している。</li> <li>近隣市町からの移動の目的地となっている多くの企業や学校、病院など、山形市には様々な都市機能が集積しており、人口のダム機能を果たしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆山形連携中枢都市圏や仙山圏の連携をよりスムーズにするとともに、今後も都市機能を維持し、通勤・通学などのニーズに広く対応していくため、広域的な公共交通ネットワークの構築・充実が求められる。</li> </ul>

## 5. 戦略目標・主な数値目標・戦略目標達成に必要となる施策

抽出された課題を解決するため、目指す都市像と社会動向を踏まえ、6つの視点それぞれに戦略目標を設定する。また、各戦略目標を達成する施策をハード・ソフトの両面からパッケージ化し、それらに位置付けた事業を各関係者と一体となって進め、山形市基本構想の目指す将来都市像の実現を図っていく。

### ■ベース計画凡例

計画名	記号	計画名	記号
山形市都市計画マスタープラン	都	山形市ウォーキング推進計画	ウ
山形市立地適正化計画	立	山形市自転車活用推進計画	自
山形市地域公共交通計画	交	山形市交通安全計画	安

### 【戦略目標】

### 【戦略目標達成に必要となる施策】

<b>戦略目標1:「健康」と「医療」を核とするまちづくり</b> ○自家用車に頼らなくても、快適に効率よく安心して通院できるよう、鉄道や路線バス、コミュニティバス等、地域の実情に合わせた交通手段を確保するとともに、各交通手段を結び交通結節点の整備や公共交通ネットワークの構築を図ります。 ○市民一人ひとりの健康寿命延伸に向けて、ウォーキングやサイクリングなど健康増進に資する事業を推進します。
<b>戦略目標2:産業・経済の活力を生み出していくまちづくり</b> ○生活者目線のほか、観光、ビジネスなど多様な目的による移動において、公共交通利用における交通手段間の接続性や利便性の向上を図ります。 ○市外からの来訪者をはじめとした多様な交流の展開を推進するため、快適な移動環境の整備や分かりやすい情報の発信を図ります。
<b>戦略目標3:豊かな環境をまもり育てるまちづくり</b> ○自家用車の多用から公共交通利用への転換による環境負荷軽減に向け、公共交通の利便性向上を図り、持続可能なまちづくりを目指します。 ○ゼロカーボンシティの実現に向けて、徒歩や自転車などの脱炭素型の移動手段の利用を促進する事業を推進します。
<b>戦略目標4:安心して暮らせる地域社会を共に創るまちづくり</b> ○地域の実情と利用者のニーズに応じた持続可能な生活交通を確保するとともに、公共交通の利用促進に向けた啓発活動や意識醸成を図ります。 ○子どもから幼い子連れの方、高齢者・障がい者まで、多様な利用者それぞれのニーズに対応した、分かりやすい情報発信を行うとともに、安全で利便性の高い公共交通を構築します。 ○高齢者・障がい者を含めた歩行者や自転車利用者等が安全・安心に暮らし、移動できるよう、バリアフリー化、安全確保等の環境整備に取り組みます。
<b>戦略目標5:山形で育まれた文化を活かすまちづくり</b> ○歴史や文化に接する機会を創出するとともに、観光資源として活用していくため、自家用車に頼らずとも、目的地までスムーズに移動できる公共交通ネットワークの構築を目指します。
<b>戦略目標6:広域連携による圏域全体の持続的な発展を目指すまちづくり</b> ○山形連携中枢都市圏や仙山圏の連携をよりスムーズにするため、「山形県地域公共交通計画」および連携都市圏の取組と連動しながら、鉄道をはじめとした公共交通の利便性向上を図るとともに、交通結節点の整備等により、広域的な公共交通ネットワークの構築を目指します。

No	分類 / 施策名	戦略目標						施策の根拠となるベース計画
		1	2	3	4	5	6	
<b>(1) 公共交通</b>								
1	交通結節点の整備	○	○	○	○	○	○	都,立,交,ウ,自
2	新駅の検討	○	○	○	○	○	○	都,立,交
3	鉄道駅等をはじめとした交通結節点のバリアフリー化	○	○	○	○	○	○	都,交,安
4	バス停のバス待ち環境の改善	○	○	○	○	○	○	都,交
5	バスレーンの導入検討・バスベイの設置	○	○	○	○	○	○	都,交,安
6	踏切道における交通の安全	○	○	○	○	○	○	安
7	環境にやさしい車両等の導入促進	○	○	○	○	○	○	都,交,安
<b>(2) 歩行者・自転車</b>								
8	ウォーカブルなまちづくりの推進【ハード事業】	○	○	○	○	○	○	都,立,交,ウ,自
9	ウォーキングモデルコース・拠点の整備【ハード事業】	○	○	○	○	○	○	立,ウ
10	サイクリングモデルコース・拠点の整備【ハード事業】	○	○	○	○	○	○	立,自
11	地域のニーズに応じた駐輪場の整備	○	○	○	○	○	○	都,自,安
12	快適な歩行環境の整備・維持	○	○	○	○	○	○	都,ウ,安
13	快適な自転車通行環境の整備・維持	○	○	○	○	○	○	都,自,安
<b>(3) 道路空間</b>								
14	無電柱化事業の推進	○	○	○	○	○	○	都,ウ,自,安
15	消雪道路・設備の整備、除排雪の実施	○	○	○	○	○	○	都,立,ウ
16	地域活性化を支援する都市計画道路の整備	○	○	○	○	○	○	都
17	安全・安心のための道路環境の整備	○	○	○	○	○	○	都,ウ,自,安
<b>(1) 公共交通</b>								
18	バス幹線路線の設定	○	○	○	○	○	○	交
19	バス路線の経路・ダイヤ等の見直し	○	○	○	○	○	○	都,立,交
20	鉄道南北縦貫運行に向けた検討	○	○	○	○	○	○	交
21	連携中枢都市圏における広域的な公共交通ネットワークの構築	○	○	○	○	○	○	都,交
22	MaaSの導入	○	○	○	○	○	○	交
23	南部循環バス、北部循環バスの導入	○	○	○	○	○	○	立,交
24	タクシー等を活用した新たな公共交通の導入(モデル事業の実施)	○	○	○	○	○	○	都,立,交
25	郊外と中心部を結ぶコミュニティバス等の運行	○	○	○	○	○	○	都,立,交
26	福祉輸送やその他輸送手段との連携	○	○	○	○	○	○	交
27	エコ通勤の推進等公共交通のきっかけづくり、啓発活動【公共交通事業】	○	○	○	○	○	○	立,交,ウ,自
28	観光客向け周遊環境の向上	○	○	○	○	○	○	交
29	蔵王と山寺を結ぶ観光路線の検討	○	○	○	○	○	○	交
30	山形～仙台間の公共交通の利用拡大	○	○	○	○	○	○	都,交
<b>ソフト面</b>								
31	スマートフォンアプリ等による利用案内・SNSによる情報発信【公共交通事業】	○	○	○	○	○	○	交
32	若者向けPRの推進	○	○	○	○	○	○	交
33	各種イベントの実施【公共交通事業】	○	○	○	○	○	○	交
34	高齢者や免許返納者等への支援の見直し	○	○	○	○	○	○	交,安
35	まちなか駐車場の配置適正化	○	○	○	○	○	○	都,立
36	コミュニティサイクルの推進	○	○	○	○	○	○	交,自
37	わかりやすいバス案内	○	○	○	○	○	○	都,交
<b>(2) 歩行者・自転車</b>								
38	放置自転車対策	○	○	○	○	○	○	ウ,自,安
39	交通ルール・マナーの啓発	○	○	○	○	○	○	都,ウ,自,安
40	ウォーカブルなまちづくりの推進【ソフト事業】	○	○	○	○	○	○	都,立,ウ,自
41	ウォーキングモデルコース・拠点の整備【ソフト事業】	○	○	○	○	○	○	立,ウ
42	サイクリングモデルコース・拠点の整備【ソフト事業】	○	○	○	○	○	○	立,自
43	エコ通勤の推進等公共交通のきっかけづくり、啓発活動【歩行者・自転車向け事業】	○	○	○	○	○	○	立,交,ウ,自
44	スマートフォンアプリ等による利用案内・SNSによる情報発信【歩行者向け事業】	○	○	○	○	○	○	ウ
45	各種イベントの実施【歩行者・自転車向け事業】	○	○	○	○	○	○	ウ,自

【主な数値目標】 ※各計画の変更に伴い、適宜更新を行う。

数値目標の指標	評価指標とする戦略目標	実績値※	実績※年度	目標値※	目標※年度	数値目標の根拠となるベース計画
歩行者交通量(休日)	1～6共通	22,399人	R1	22,575人	R7	立
公共交通の利用者数(市内主要鉄道駅の利用者数、路線バス、コミュニティバスの利用者数)	1～6共通	11,078千人	R1	11,189千人	R7	交
中心市街地における上屋やベンチの設置などのバス待ち環境の整備件数(5年間の累計)	1・2・4	-	R1	10件	R7	交
交通結節点の新設及び改善数	1～6共通	-	-	7か所	R15	-

## 6. 推進体制

戦略の推進にあたっては、PDCAサイクルにより毎年事業進捗を確認・検証し、改善に努めていく。